

奈良先端科学技術大学院大学 男女共同参画推進シンポジウム

ー ワークライフバランスとキャリアアップ・新しい時代の働き方 ー

アンケートで寄せられた主な要望・感想

希望するテーマ

- ・ 人材育成についても焦点を当ててください。
- ・ 男性の家事・育児への考え方・ワークモデルの提示など。
- ・ 女性が働きやすい職場。
- ・ 若手研究者への保護。
- ・ (ワークライフバランスの個々の) 取組の成功例、失敗例の紹介等。

基調講演について

- ・ 企業での構成員の多様性が生産性の向上につながるという話が参考になった。
そのための取り組み(企業として)が、大学にも役に立つのではないかと思うので、その具体的な取り組みを詳しく知りたかった。
- ・ 後半 1/3 のバイオの話の部分とテーマの”多様な人材”とのつながりが、理解しにくかった。
- ・ 成功体験として大変うまくいっていたと思う。

パネルディスカッションについて

- ・ 本テーマについて世代・状況により考えることが異なるので、いろんなバックグラウンドを持つパネラーの方が、それぞれの立場で考えを述べるという今回の取り組みは良かった。
- ・ コーディネーターの中島先生を介さずにディスカッションが盛り上がる部分がなかったのは、残念だった。
- ・ あまり参考にはならなかったが面白かった。

ワークライフバランスについて

- ・ 22,23 時まで働くことや、土日でも働くことが当たり前という認識が日本にある限り、女性の働きやすさは改善しないと思います。Focus すべきは女性の働く環境ではなく、"男性"の働き方と、意識ではないでしょうか。
- ・ 女性研究者が研究を続けるための制度化。配偶者が遠方に住んでいたりした時の支援があればいいと思う。
- ・ 女性だから～とか言いすぎないでほしい。
- ・ 日本では、キャリアアップにはワークライフバランスはむしろ悪、という考えが固定しているような印象を持っていたが、大学(理系?)に限った話なのかなと、企業の話聞いて思いました。
- ・ 人によってとらえ方が違うと思うので、ワークライフバランスに悩んだとき、参考となるモデルが多く示されていたり、多くの人に相談できるシステムがあれば良い。
- ・ キャリア形成時期には、支援があっても良いと思う。支援する側と支援される側がその立場を明確にして、相互に理解し、周辺もそれを認識することが重要。
- ・ 日本文化以外の海外のワークライフバランス等、様々なあり方を知識として学んだ上、自分自身、家庭、相互の関係を順調に進めていけたらいいと思う。
- ・ どちらか一方を選ばなければならない状況は多いと感じる。両立は難しそう。
- ・ 各個人の状況、環境などでバランスの取り方は多種多様で、それをディスカッションしたところで答えはないし、制度として整備することもできない。ただ若手研究者に対する保護はしてあげないと、社会生活への寄与ができない。
- ・ 前の上司と次の上司がワークライフバランスに関して考え方が異なる場合、非常に苦しみます。
- ・ 要は人間関係。理屈だけでは解決しない。
- ・ ワークライフバランスとキャリアアップは、本人の努力と周りの協力が必要と思われる。
- ・ 研究のためにならなくても、life を大切に考えるがあっても良いのではと考えた。イギリスの教授は別に研究のために犬の散歩をしているのではない。
- ・ 文化的背景から変えていかないと、なかなか良いバランスにはならないが、個人の考え方の違いもあり、皆同じにはならない。
- ・ キャリアアップについての議論が少なかった。

その他意見

- ・ 女性研究者を増やすには、若い世代に近いポスドク達が、研究の楽しさ、おもしろさを中・高・大学生に話す機会が必要。
- ・ 世間一般の基準からみて、男性社会で成功されている方達の体験談はたくさんあった

が、様々な社会的な要因によって不当に抑圧されている方達の視点が、ほとんど入っていなかったことが残念。

- ・ 女子学生が理系で少ない理由の一つが親の意見とういのは同感である。
- ・ (女子学生の理系の進路選択のためには)一般向け(女子学生の親世代)のシンポジウムを行うのが効果的。学内むけシンポジウムは参加者が限られており、効果のほどが疑問。
- ・ 基調講演とパネルディスカッションをお聴きしていて、男女の差別(区別?)が減るようになるためには、多くのファクターがあることが分かった。私に出来ることは多くはないが、小さなことを積み上げていくしかない。
- ・ 女性に対してプラスになることをする以前に、周囲の理解がないということを経験してきた。この部分に関しては制度的な支援よりも、障害を除くための意識改革が大切だということがわかった。大学教員として、ラボの学生のワークライフバランスを考えると、スーパーバイズする上で、効率という言葉の重要性をもっと真剣に考えなければならぬ。
- ・ 研究者を研究生(学生)と職業としての研究者(教授等)を区別して、議論されればよかった。
- ・ 若い方々の本音の考えが聞けてよかった。
- ・ 結論が出る話ではないので、この様な皆で考える機会は大事。

